

研究課題名	若年女性の大腿骨近位部骨折における骨脆弱性および転倒関連因子の検討
試料・情報の利用目的・利用方法（他機関へ提供する場合その方法）	大腿骨近位部骨折（太ももの付け根の骨折）は、高齢の方に多い骨折として知られています。しかし、まれに 40 歳代や 50 歳代など、一般的にはまだ高齢者とされない年代の女性にも起こることがあります。このような比較的若い年代で骨折を起こした方では、「骨が弱くなっていた」のか、「転びやすさがあった」のか、あるいはその両方が関係しているのかについては、十分には分かっていません。 そこで本研究では、大腿骨近位部骨折のため当院で治療を受けた女性患者さんを対象に、年代による特徴の違いについて調査を行います。診療録（カルテ）に記録されている情報をもとに、骨密度やビタミン D の値など「骨の弱さ」に関係する項目に加え、握力やバランス能力、歩行の状態など「転びやすさ」に関係する項目について調べます。また、40～64 歳、65～74 歳、75 歳以上の年代ごとに比較を行い、若い年代で骨折を起こした患者さんにどのような特徴があるのかを検討します。 なお、本研究で使用する情報は、通常の診療の中で実施された検査や評価結果のみであり、この研究のために新たな検査や治療を行うことはありません。また、研究に使用する際には個人が特定されないよう十分に配慮します。 この研究によって、比較的若い年代で起こる大腿骨近位部骨折の特徴が明らかになることで、骨折を未然に防ぐための早期対策や、患者さん一人ひとりに合わせた転倒予防・骨折予防につながることを期待されます。
研究対象者	2019 年 6 月から 2026 年 5 月の間にベルランド総合病院整形外科に大腿骨近位部骨折を受傷して入院し、手術加療を受けたかた
利用又は提供する試料・情報の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。本研究では、診療録（カルテ）に記録されている以下の情報を使用します。これらはすべて通常の診療の中で確認・測定されたものであり、この研究のために新たな検査や治療を追加で行うことはありません。 ■ 患者さんの基本的な情報 ・年齢 ・性別 ・BMI（身長と体重から計算される体格の指標） ■ 骨折や治療に関する情報 ・骨折した場所（太ももの付け根のどの部分が骨折したか） ・手術方法（人工骨頭置換術、骨接合術、人工股関節全置換術など） ■ 骨折前の生活状況 ・骨折前に生活していた場所（自宅、病院、介護施設など） ・骨折前の歩行状態（普段どのような歩行補助具を使用していたか） 〔例：補助具なし、杖、歩行器、押し車、車椅子など〕 ■ 入院中に行われた評価 ・認知機能検査（記憶力や考える力の状態を確認する検査） ・バランス能力の評価（どの程度バランスが保てるか） ・握力測定（筋力の指標） ・下腿周径（ふくらはぎの太さ。筋肉量の目安となる） ・手術後 7 日目頃の移動方法（歩行、車椅子など） ■ 骨や栄養状態に関する検査 ・骨密度検査（骨の強さを調べる検査） ・血液中のビタミン D 値 ・血液検査結果（アルブミン値、ヘモグロビン値など）
研究予定期間	機関の長の実施許可日 ～ 2026 年 8 月 31 日
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られます
試料・情報を利用する者の範囲	この研究はベルランド総合病院 FLS 推進室のみで行います

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は機関の名称	ベルランド総合病院 クオリティ管理センター FLS 推進室 田中暢一
研究に協力したくない場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は 2026 年 8 月 15 日までに下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはありません
利益相反について	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問合せ先	ベルランド総合病院 クオリティ管理センター FLS 推進室 田中 暢一 メールアドレス：nob_tanaka@seichokai.or.jp 〒599-8247 堺市中区東山 500-3 TEL：072-234-2001（代）